



統合医療世界大会にて“和ハーブ”が注目！

日本原産の薬草などについて当協会理事長で医学博士の古谷 暢基が発表

当協会の理事長であり、医学博士の古谷 暢基が2016年11月22日火曜日（スリランカ現地時間）に開催された「World Congress of Integrated Medicine 2016（国際代替医療大学・統合医療世界大会2016）」で日本人初の登壇を行った。内容は、国際的に注目が高い「和ハーブ（＝日本の有用植物）」について発表。

古谷 暢基は、“日本医療の父”北里柴三郎のほぼ直系の子孫で、国際代替医療大学（International Open University of Complement Medicine, <http://www.oiucmed.net/>）の医学博士の称号を持つ。

当大学はスリランカ・コロンボ市にあり、1978年の「アルマ・アタ宣言」（伝統医療と予防医学の重要性の見直しを説いたWHOによる世界宣言）の実践の拠点として国連およびWHOより、世界唯一の指定校（モデル校）とされている。

スリランカ初代大統領の直接の働きかけによる1962年の創立時には、あのマザー・テレサもメッセージを寄せ、スリランカ国内ではコロンボ大学などと並ぶ格式で、現在は全世界に150の支部を持つ名門中の名門だ（日本は2017年設立予定）。

世界一の長寿国の日本を支えてきた自然療法と、「ドクダミ（ドクダミ科）」、「クロモジ（クスノキ科）」、「カキドオシ（シソ科）」などの日本独特のハーブ「和薬」について発表した。



医学博士授与式



和薬のひとつ「カキドオシ」



発表の様子

<協会概要>

【代表理事】古谷 暢基（フユ マサキ） 【設 立】2009年10月

【コンセプト】埋もれつつある日本人の植物文化、伝統を次世代に受け継ぎ、予防医学の面からも広めていく

【活 動】和ハーブ検定・全国各地で開催の和ハーブ塾（フィールドワーク）・和ハーブレ스토랑/和ハーブ専門店の運営、等

<和ハーブ検定概要>

開催スケジュール：年3回 全国で一斉開催（次回は2017年3月11日）

試験内容：和ハーブの種類、身体への機能性、利用法、文化・歴史との関わりなどを学ぶ

<本件に関するお問い合わせ> (一社) 和ハーブ協会 広報：比企（ヒキ）

TEL：03-6435-3863 FAX：03-6435-3861 E-mail：info@wa-herb.com